

そこで、兄弟たち。堅く立って、私たちのことば、手紙によって、教えられた言い伝えを守りなさい。 Ⅱテモテ2:15

2015(27)年 週 報

4月 5日
第1 聖日
第 3398 号

「十字架。復活」

聖
言

主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。 ローマ4:25

礼拝の恵み 第二〇章
第八節 礼拝の障害
第二節 現世的であること

この世の王国のために生きるのをやめて、神の国のために自分の生活を想定するようになる。自分のために生きるのをやめて、キリストのために生きるようになる。見えるもの、一時的なものの領域で生きるのをやめて、見えないもの、永遠的なものの領域で生きるようになる。地的なものに対する関心を失って、天的なものに関心をもつようになる。こうして今の悪の世から救いだされる(ガラテヤ一ノ四)。新たに生まれることにより、その生国において「旅人であり寄留者である」このようにしてその現世人だった人は「だれでキリストのうちにあるなら、その人は新しく造られた者です。古いものは過ぎ去って、見よ、すべてが新しくなりました。」(コリント五ノ一七)。という真理を実証する。この新しく造られた者どもの一員として、かれは今神の礼拝者となるのである。

新しく造られたクリスチャンは二度ともう現世とその生き方とに心を寄せない、と記すことができれば、喜ばしいことであるが、残念ながら、そうではない。肉という悪い性質が、まだかれの内にはあり、すこし刺激すればすぐにその思考や言動のなかに現世性が現れる。これがパウロの同志だったデマスの悲劇であった。「デマスはこの世を愛し、私を捨て」(Ⅱテモ四ノ一〇)(ギブス「礼拝」より)

イエス・キリスト聖成伝道教会・東洋聖書神学院・聖成基督教団

牧師 山本 稔 〒653-0812 兵庫県神戸市長田区長田町1丁目2番6号

電話：FAX (078) 691-1419 郵便口座番号 01170-3-20374

<http://jchec.org/>

minoru_yamamoto@hotmail.co.jp メール m7-inoru@ezweb.ne.jp

二〇一五年三月二十九日午前二〇時 礼拝 山本牧師

「十字架と神の怒り」

「私たちもみな、かつては不従順の子らの中であって、自分の欲の中であって、肉と欲の望むままを行い、ほかの人たちと同じように、生まれながら御怒りをうけるべき子らでした。」エペソ二ノ三

桜も咲き始め、ぴかぴかの新入生、社員の季節です。半面多くの悲しい事件が次から次へと起っています。肉欲は際限なく拡大しています。福島先生からいつ解決できるのかわからない放射能の汚染のためにお祈りくださいとお便りがありました。私は地震のことはいまだに忘れられません。今日起きてもふしぎではありません。それでも土地の価格が上昇し、耐震ゴム偽装事件が起っています。エペソの都市も教会もいまはありません。人間のすることは生きいきづまっています。簡単なことです。創造主からはなれていくのです。罪過と罪とは氷の上をブレーキの効かない車ではしっているような、滑りやすい的外れな生活をしているのです。多くの若者たちが前途をはかなんでいます。年金生活の老人たちには対する振り込め詐欺も金ほしさだけでなく、詐欺をすることが正義だと言う社会に対する挑戦状を突きつけているのです。これはまさしくこの世の勢力であるサタンに支配されている現実の姿です。今日は棕櫚の主日です。イエス様がエルサレムの入城された日です。はじめは多くの人々は歓迎しましたが、数日後同じ民衆はイエス様に対して十字架につけるようにと叫んだのです。

二〇一五年四月一日午後七時 祈禱会 山本牧師

「ツロに対する宣告③」(エゼキエル連講四八回)

「あなたの心は自分美しさに高ぶり、その輝きのために自分の知恵を腐らせた。そこで、わたしはあなたを地に投げ出し、王たちの前にみせものとした。あなたは不正な商いで不義を重ね、あなたの聖所を汚した。わたしはあなたのうちから火を出し、あなたを焼き尽くした。こうして、すべての者が見ている前で、わたしはあなたを地上の灰とした。国々の民のうちであなたを知るものはみな、あなたのことでおののいた。あなたは恐怖となり、とこしえになくなってしまおう。」(エゼキエル二八ノ一七〜一九)

ツロはバビロンに征服されなかったが、一五〇年後、アレキサンダーによって征服された。エデンの園でアダムを誘惑したのは蛇であった。すでにアダムが墮落する前に天の使いが墮落する。彼は自分の知恵を誇り、自分を神とした。ツロは今滅びてしまった歴史上の豊かな貿易都市であったとともに、知恵と豊かさを誇り、自分を神として人間を墮落させる悪魔の姿である。現代はまさしくツロを追い求めている。そのような中で十字架の福音を語らせていただきたい。

イースター年度末克己献金お願い

今年三月二十九日〜四月四日が受難週です。主のお苦しみを忍びましょう。

十字架の上から語られた七つの代表的なおことば

十字架上の第一のことば

「父よ、彼らをお赦しください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」(ルカ二三ノ三四)

十字架上の第二のことば

「あなたはきょう、わたしとともにパラダイスにいます。」(ルカ二三ノ四三)

十字架上の第三のことば

「母に『女の方。そこに、あなたの息子がいます。』と言われた。それからその弟子に『そこに、あなたの母がいます。』と言われた。」(ヨハネ一九ノ二六、二七)

十字架上の第四のことば

「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか。」(マタイ二七ノ四六)

十字架上の第五のことば

「わたしは、かわく。」(ヨハネ一九ノ二八)

十字架上の第六のことば

「完了した。」(ヨハネ一九ノ三〇)

十字架上の第七のことば

「父よ、わが霊を御手にゆだねます。」(ルカ二三ノ四六) 十字架は第二ノアの大洪水の人類の裁きであり、第二の天地創造であります。十字架は全宇宙の中心で輝いているのです。ゆえに十字架を度外視した平和も愛も生命もすべては瓦解します。十字架を経ずして教会と全宇宙の復活は考えられません。

イエス様の復活後の現われ

① 墓の外でマグダラのマリヤ (マルコ一六、ヨハネ二〇)

② 墓に急ぐ女性たち (マタイ二八)

③ エマオの途上、二人の弟子 (ルカ二四)

④ エルサレム(墓で)、ケパに (ルカ二四、一コリント一五)

⑤ トマスを除く弟子たちに二階広間で (ルカ二四、ヨハネ二〇)

⑥ トマスを含む弟子たちに、おそらく二階広間 (ヨハネ二四、

ヨハネ二〇)

⑦ 弟子たちがガリラヤに行き (マタイ二八)、漁をしているとき (ヨハネ二一)

⑧ 山の上 (言い伝えではタボル山) で弟子たちに現れ、福音を全世界中に届けるように命じられる。(マタイ二八)

⑨ 五〇人以上の弟子たち人現れる(場所は不明。エルサレムだったかも知れない(一コリント一五))

⑩ 兄弟のヤコブに現れる。おそらくエルサレムで、なぜなら、ヤコブは後にエルサレムの教会のリーダーになる(一コリント一五)。

⑪ ベタニヤの近く、オリブ山で弟子たちに現れ、天に昇る(ルカ二四、使徒一)

(マルコ一五ノ四六〜一六ノ七)「そこで、ヨセフは亜麻布を買い、イエスを取り降ろしてその亜麻布に包み、岩を掘って造った墓に納めた。墓の入り口には石をころがしかけておいた。マグダラのマリヤとヨセフの母マリヤとは、イエスの納められた所をよく見ていた。さて、安息日が終わったので、マグダラのマリヤとヤコブのマリヤとサロメとは、イエスに油を塗りに行こうと思ひ、香料を買った。そして、週の初めの日の早朝、日が昇ったとき、墓に着いた。彼女たちは、「墓の入り口からあの石をころがしてくる人が、だれかいるでしょうか。」とみなで話しあっていた。ところが、目をあげて見ると、あれほど大きな石だったのに、その石がすでにころがしてあった。それで、墓の中にはいったところ、真っ白な長い衣をまとった青年が右側にすわっているのが見えた。彼女たちは驚いた。青年は言った。「驚いてはいけません。あなたがたは、十字架につけられたナザレ人イエスを捜しているのでしょうか。あの方はよみがえられました。ここにはおられませんが。ご覧なさい。ここがあの方の納められた所です。ですから行ってお弟子たちとペテロにイエスは、あなたがたより先にガリラヤへいかれます。前にも言われたとおり、そこでお会いできます。」とそう言いなさい。」